

令和4年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成
自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）
健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）
＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

子供が、教職員が、保護者が、地域の人々が、誰もが生き生きと輝く学校をめざす。

- (1) 子供が夢や目標に向かって 主体的に活動に取り組む学校
- (2) 知・徳・体の調和のとれた発達と協働する力を育む学校
- (3) 教職員が専門性を発揮し、チーム力を高めて創意工夫に取り組む学校
- (4) 児童・保護者・地域 との信頼 関係を築き、家庭や地域の教育力を生かす学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、各種学力調査問題を活用しながら、基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育む学習指導の充実に努める。
- (2) 「宮っ子心の教育」を推進し、個に応じた支援及び認め励ます教育の充実に図りながら、児童にとって居がいのある温かい雰囲気のある学校経営、学級経営に努める。
- (3) ○心身ともに健康で安全な生活を送るために、体力向上や保健教育、食育、安全教育に関する指導の充実に図る。
- (4) 信頼される教職員を目指して個々の資質・能力の向上を図るとともに、教職員組織のチーム力を高め、働き方改革を推進する。

若松原地域学校園教育ビジョン「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」
9年間の学校教育にかかわる教職員が、その思いと責任を共有し、連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・チーム五代…全教職員が互いに連携、支え合い、チーム力を高めながら活気ある学校づくりを推進
- ・特色ある学校づくり…地域の教育力をこれまで以上に有効に活用して特色ある教育活動を推進
- ・地域とともにある学校づくり…地域協議会と一体となり地域とともにある学校づくりを推進

【 学 習 指 導 】

- 基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み、課題を解決し、自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。
- ・学び合う(伝える・まとめる・振り返る)力の向上…自ら考え、分かりやすく表現できるようにするための「宇都宮モデル」の活用等、授業の進め方の工夫
 - 基礎・基本定着…基礎・基本定着のための「宇都宮モデル」の活用と家庭学習の習慣化
 - ・授業改善…よりよい授業を目指した学力調査等の結果を分析・活用した授業改善
 - ・個に応じた指導、支援の推進…一人一人に応じたきめ細やかな指導(少人数指導・かがやきルームとの連携含む)の継続による着実な知識・技能の習得

【 児 童 生 徒 指 導 】

- 一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。(帰属意識の高い学級づくり)
- ・自己有用感・自己肯定感の高揚…自己有用感や自己肯定感を高めるための認め励ます指導の推進
 - あいさつ促進…進んで元気なあいさつができるようにするための、児童主体のあいさつ運動の促進
 - いじめゼロ推進…すべての児童が楽しく明るく生活できるようにするためのいじめゼロ運動の推進
 - ・豊かな心の育成…豊かな心を育むための地域の教育資源を生かした体験活動や道徳教育の実施

【 健 康 (体 力 ・ 保 健 ・ 食 ・ 安 全) 】

- 健康に関する自己管理能力や体力の向上、安全に配慮し行動できる力、望ましい生活習慣や食習慣を身に付ける力を育てる。
- ・安全指導の推進…自分の命を守る行動力を身に付けるための、安全指導の推進
 - 食育の推進…自らの健康を管理する力を身に付けるための、保健教育と食育の推進
 - 体力の向上…進んで運動し体力を高めるための外遊びの奨励や各種体力検定の実施、体育授業の工夫
 - ・たくましさの涵養…心身のたくましさを育むための、学習や生活上の目標達成に向けた努力継続の支援

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

| 項目 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 方向性 | 評価 |
|---------|---|---|-----|--|
| 目指す児童の姿 | A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 85%以上 | ① 小テスト、まとめテストや授業で学んだ内容の習熟問題を行い、確実な定着を目指す。また、計画的な朝の学習の時間の活用や、学年に応じた内容の宿題を通して、基礎的な学力の向上を図る。 | B | 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 91.9%↑(87.7%)を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率 90.5%↑(85.9%)、教職員 97.2%↑(93.3%)であった。 【次年度の方針】 ・漢字の小テスト、まとめテストや算数の授業で学んだ内容の習熟問題を行い、確実な定着を目指す。また、計画的な朝の学習と、長期休業や毎日の宿題を通して、漢字・計算練習を充実させ、基礎的な学力の向上を図る。 ・学習問題からまとめまでを構造的に板書し、ノートとの一体化を図り、整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。 ・単元を通じた学習課題を設定し、児童が意欲的に学習に取り組める学習形態を取り入れながら、問題解決的な学習を仕組んでいく。 |
| | | ② 学習問題からまとめまでを構造的に板書し、ノートとの一体化を図り、整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。 | B | |
| | | ③ 単元を通じた学習課題を設定し、ペア学習やグループ学習など、児童が意欲的に学習に取り組める学習形態を工夫しながら問題解決的な学習を仕組んでいく。 | B | |
| | A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 保護者アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒肯定的回答 90%以上 | ① 特別の教科道德の授業の充実を図るとともに、実践したデータ、資料等は学年ごとに保管、整理し、いつでも活用できるようにする。 | B | 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率は、92.6%↓(93.5%)であった。数値指標 90%を上回っている。 ・児童の肯定的回答率は 91.3%↑(87.2%)であった。 【次年度の方針】 ・児童の思いやりを認め、学年や学級に関係なく、意図的、積極的に褒めていく。また、児童同士が感謝の気持ちを言葉として表す活動を帰りの会や学級活動を通して、常時行うことで、互いに思いやりの心を醸成していく。 ・道徳科及び、学校で行われる全ての活動において、道徳教育の充実を図るとともに、児童が直面した諸問題について、学級または学年で望ましい行動を話し合い、実践できるようにしていく。 |
| | | ② 授業外においても、児童の思いやりを認め、褒めていく。また、感謝の気持ちを言葉として表すことを伝えていくことで、思いやりの心を醸成していく。 | B | |
| | | ③ 全校一斉の道德の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。 | B | |
| | A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 | ①「学習の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識付けを図り、自己評価をする。 | B | 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 90.1%↑(81.1)で、数値指標 80%を上回っている。 |

| | | |
|---|--|---|
| <p>【数値指標】 児童アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒肯定的回答 80%以上</p> | <p>② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週的生活目標の設定を工夫するとともに、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。また、児童指導部会を中心に、全校体制で規範意識を高められるようにする。</p> <p>③「五代の子10の約束」と「五代の子の一日」の提示を工夫し、教職員が足並みを揃えた指導に当たるとともに、学期終わりや長期休業前に児童の生活を振り返らせる機会を与え、学級の児童一人一人の個別指導の充実を図る。</p> <p>④ 毎職員会議後の、特別支援を要する児童の経過報告や児童指導委員会における事例研究などの研修を実施し、児童理解に努める。</p> <p>⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連絡会により、学校間の連携を図る。</p> <p>⑥ 学級懇談会の充実や育成会・自治会等の協力、家庭・地域との連携を強化するとともに、各種便り、学校ホームページを利用して児童の様子を発信していく。</p> | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率 93.6↑(92.2%)%、地域住民 100.0% ↑(90.0%)と、いずれも高い数値を示している。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五代の子の一日」は、年度初めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りカードを活用し、児童一人一人が自身の行動を振り返り、目に見える形で行えるよう実施する。 ・児童指導部会場で、各学年および学校の児童の実態を把握し共通理解を図り、対応策、または諸問題行動の予防策を考え、きまりやマナーを守ることを全校的に推進していく。 ・職員会議後の児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報交換やケース会議などにおいて、児童理解を深めるとともに、組織的に対応できるよう指導の徹底を図っていく。 ・五代小学校、新田小学校、若松原中学校の児童指導主任、生徒指導主事を中心に情報交換を行い、学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。 ・社会状況によって学級懇談会等を実施できないことも考えられるので、HP や便り等を活用して、児童の様子を保護者や地域に発信していく。 |
| <p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒肯定的回答 85%以上 保護者アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校外外でのあいさつ指導の徹底を図る。</p> <p>② 教職員が手本を示し、下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する（登校班長、縦割り班班長の指導等）とともに、小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日(年7回)を実施する。</p> <p>③ 各種たよりや学校ホームページ等にあいさつ運動の取組を紹介したり、あいさつを啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 94.7%↑(85.9%)で数値指標 85%は上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 82.7% ↑(78.3%)で、数値指標を上回っている。 ・教職員の肯定的回答率 86.1% ↑(70.0%)、地域住民 100.0% ↑(90.0%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続くことを踏まえ、相手の目を見て、挨拶することや会釈することに重点をおいて指導をしていく。 ・全教職員で、時と場に応じた挨拶が上手にできている児童を称賛していく。またその児童を担任に伝える。 ・学級において、挨拶について話し合い、称賛及び指導を繰り返し行い、挨拶の習慣化が図れるようにしていく。 ・教師自身が手本を示し、率先して挨拶をすることで、挨拶を返したり、自分から挨拶したりできるよう全校的に推進する。 ・各種たよりや学校ホームページ等に挨拶推進の取組を紹介したり、挨拶を啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。 |
| <p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> | <p>① 目標を設定する際には、児童の実態に合った達成できそうな目標を設定するようにし、「できた」という達成感を積み重ねていくようにする。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 87.8% ↓(89.3%)を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率 74.8% ↑ |

| | | | |
|---|--|----------|--|
| <p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 外国語活動の授業においては、ALTとの連携を図り、児童が興味・関心をもって取り組める課題を設定し、コミュニケーションの必要性や楽しさを実感できるような授業を行う。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は 88.5% ↑ (83.0%) であり、数値指標 85%を上回った。 教職員の肯定的回答率は 88.9% ↑ (86.7%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語活動の授業において、児童が興味・関心をもって取り組める課題を設定する。授業者は積極的に英語を使い、ALT と連携しながら、コミュニケーションの必要性や 楽しさを実感できるような授業を行う。 |
| <p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 総合的な学習の時間や社会科、生活科、道徳等で地域や宇都宮市のよさについて具体的に取り上げる。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は 82.0% ↓ (85.1%) を示し、数値指標 85%を下回っている。保護 |
| | <p>② 「宇都宮学」を計画的に実施し、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。</p> | <p>B</p> | <p>者は 67.1%(67.1%)、教職員は 77.8% ↓ (80.0%)であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> |
| | <p>③ 朝の会や帰りの会等で、宇都宮の良さについて意図的に紹介する機会を設け、児童に周知していく。</p> | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> 今年度、数値指標が上がったせいもあり、目標を下回ってしまった。今年度の具体策を引き続き、確実に実施するとともに、折に触れて「良さ」紹介していく機会を設け、郷土への思いを更に高めていく。 |
| <p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> | <p>① ICT 機器の活用に関する情報交換や ICT 機器を活用した研究授業の実施により、ICT 機器の積極的な活用を図る。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は 84.7% ↓ (89.8%) であり、数値指標 85%を下回っている。 教職員の肯定的回答率は94.4% ↓ (100%) 保護者の肯定的回答率は 79.7% ↑ (79.3%) であった。 |
| | <p>② 図書室と連携を図った授業の年間指導計画への位置づけや図書ボランティアとの連携による読み聞かせにより、図書の積極的活用を図る。</p> | <p>B</p> | <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、積極的に ICT 機器を活用する。プログラミング教育の視点からも、教科等の授業で ICT 機器を使う活動を再度確認し、適切に活用する。GIGA スクール 構想の整備の充実を図り、一人一台端末の効果的な活用ができるようにする。 総合的な学習の時間や教科等の授業で、積極的に図書室を利用し、また、端末の併用により相乗効果を生み出す活用法を検討していく。 調べ学習等で使用する図書を整理し、活用できるようにするとともに、巡回図書も積極的に活用していく。 |
| <p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】</p> | <p>① 高齢者や地域の方とふれあう活動の前後に感謝や思いやりの心をもてるよう指導する。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は 91.3% ↑ (87.2%) であった。数値指標 90%を上回っている。 地域住民 100.0% ↓ (87.5%)であった。 |

| | | | |
|---|--|----------|---|
| <p>児童アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> | <p>② 学校行事や特別の教科道徳でも、高齢者との接し方について考えさせ、誰に対しても思いやりの心をもって接することができるようにする。</p> | <p>B</p> | <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染状況に留意し、また、感染症対策を十分に行った上で、可能な交流方法を模索していく。 ・活動前後に高齢者に対する接し方を指導したり、感謝の気持ちをもてるよう振り返りを行ったりする。高齢者との触れ合いは、コロナ禍の中では難しいが、お話し会ポケットや安心安全ボランティア、学習支援ボランティア等の地域の方々に感謝の気持ちをもてるようにする。 |
| <p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 社会科や理科、道徳、総合的な学習の時間等で、環境問題や持続可能な社会について取り上げ、自分事として考え行動することができるように学年に応じた指導を行う。</p> <p>② 環境保全を目的としたエコキャップ回収やクリーン活動、ゴミの分別などの活動を継続して行う。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 87.8%↑(82.6%)を示し、数値指標 80%を上回っている。 ・教職員の肯定的回答率は 66.7%(66.7%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについては、メディアでも盛んに取り上げられており、児童の中でも「やっていかなければいけない取組」として認知されている。引き続き今年度の具体策を続けていくとともに、ごみの減量等、学年に合わせた形で考えさせられるよう支援していく。 |
| <p>B1 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、楽しい学校生活を送っている」 ⇒肯定的回答 90%以上</p> | <p>① アンケートをもとに、計画的に教育相談を行い、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>② 学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。</p> <p>③ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。</p> <p>④ 集会活動の実施方法や形態を工夫し、児童が活躍できる場や認め合える場を設ける。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 88.6%↑(88.5%)で、数値指標 90%を下回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学業指導に力を入れ、児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行っていく。 ・アンケートをもとに、計画的に教育相談を行い、児童一人一人を受容的な態度で受け止め、児童に寄り添う姿勢を全教職員が継続していく。 ・職員研修等を通して、学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い、担任一人で抱え込まないようにする。また、必要に応じて、ケース会議を開き、組織的に対応をしていく。 ・コロナ禍の状況を注視しながら、適宜、放送機器を活用するなど活動の形態を工夫し、児童が活躍できる場を設ける。 ・学級活動や休み時間に友達と交流を深める場面を意図的に増やしていくことで、児童同士がよい関係を築いていけるように橋渡しをしていく。 |
| <p>B2 児童は、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は読書が好きで、進んで本を読んでいる」 ⇒肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。</p> <p>② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入を心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営(図書だよりの内容の充実等)を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定回答率は 73.5%↑(71.7%)を示し、数値指標 80%以上には達していない。 ・保護者の肯定的回答率 59.3%↓(59.5%)、教職員は 91.7%↓(100%)、地域住民は 100%↑(85.7%)であった。保護者は、学校での児童の読書をする姿を見ていないので、肯定回答率が低いと思われる。 <p>【次年度の方針】</p> |

| | | | | |
|---------------------------------|---|--|-------------|---|
| | | <p>③ ボランティア（「おはなし会ぽけっと」や「雀宮おはなし会」など）・7学年の職員・委員会児童等による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。</p> <p>④ 朝の読書の日、時間までに本を選び着席して、準備させる。教職員もいっしょに読書をすることで、児童への啓発を図る。</p> <p>⑤ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通じたコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。</p> | B B B | <ul style="list-style-type: none"> ・読書記録カードや音読カードを活用し、自分の読書を振り返ることができるようにすることで、読書の量的・質的向上を図る。 ・朝の読書では、学年の「必読図書」の読書を奨励し、時間までに「物語」の本を選び、着席するようにする。 ・「必読図書」は教室に配置し、児童がより本に接しやすい環境を整える。 ・教職員・図書委員による読み聞かせなど、児童が本に触れる時間を増やしていく。 ・巡回図書を活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を年2回実施し、家庭での読書習慣の形成の一助とする。 |
| 目 指 す 学 校 の 姿 | <p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒肯定的回答 95%以上</p> | <p>① 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。</p> <p>② 外部機関と連携し、全体で共通理解を図りながら、組織的な対応を行う。</p> <p>③ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。</p> | B B B | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答率は 97.2% ↑ (96.7%)で、数値指標 95%を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年、ブロックを中心に日頃から教職員同士が声を掛け合い、担任一人が抱え込まないようにする。 ・対応が後手に回らないよう、相談しやすい雰囲気醸成する。 ・外部機関とつながりある児童が分かるようにしてスムーズに引継ぎが行えるようにする。 ・支援を要する児童の実態を把握し、長期目標と、それを達成するための短期目標を定め、当該児童に効果的な方法を見付けていく。 ・児童の特性や配慮事項などを細やかに記録し、担任以外の教職員が対応できるようにしたり、次年度の引継ぎがスムーズに進めたりできるようにする。 |
| | <p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒肯定的回答 95%以上 保護者アンケート「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 4月の学級開き、道徳や学級活動、朝や帰りの会の時間を利用し「いじめは絶対に許さない」ということを言い続けることで、いじめを許さないという意識を高める。</p> <p>② いじめの早期発見・早期対応のため、5月、10月、12月、2月に「いじめにかんするアンケート」を実施し、面談を行い、いじめの早期発見と早期解決に努める。また、日頃の教育相談を充実させるとともに、年2回教育相談週間を設定し、児童の不安感等の解消を図る。</p> <p>③ 児童主体のいじめゼロ集会を実施することで、いじめについて深く考え、いじめをしない雰囲気醸成する。</p> | B B B | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 97.9% ↑ (96.6%)で、数値指標 95%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 75.3% ↓ (79.3%)で、数値指標 80%を下回ってはいる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは決してあってはならないことだということを4月の学級開きから、年間を通して指導を継続することで、学級や学校にいじめを許さない雰囲気醸成し、いじめを予防していく。 ・いじめに関するアンケートは、5月、10月、12月、2月に実施し、いじめの早期発見に努める。また、児童の不安感解消を第一に考え早期対応に努めていく。 ・児童の様子や変化をよく観察し、気になる児童の様子は学年や児童指導主任、管理職で共有したり、必要に応じて面談を行ったりする。 ・いじめゼロ強調月間において、児童会中心 |

| | | | |
|--|---|---|---|
| | ④ 「うつのみやいじめゼロ宣言」を活用し、いじめゼロ運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成するとともに、学年だよりやホームページにいじめゼロ強調月間(5月、9月)の取組を掲載する。 | B | <p>の活動を行うことで、いじめゼロを推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信する。 ・読書の時間に担任によるいじめに関する本の読み聞かせを行ったり、人権に関する作文(あすへのびる)を読む時間を設けたりするなど、自他の人権への関心を高める。 |
| <p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 保護者アンケート「教職員は一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> | ① 児童一人一人の特徴を生かすことができる係活動を工夫したり、帰りの会等で一人一人の良さを認める場面を設けたりして、一人一人に居がいのある学級経営を行う。 | B | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率は、84.6%↓(86.0%)で数値指標85%を下回っている。 ・児童の肯定的回答率は95.4%↑(94.4%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人のよさが発揮される居がいの感のあるクラスづくりを行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・学級活動や道徳、帰りの会等、児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで、温かい学級の雰囲気醸成していく。 ・連絡帳や電話を通して児童の頑張りやよさを保護者に伝えていくことで、児童、保護者と信頼関係を築いていく。 ・一人一人の児童に対し、教育的愛情をもって接し、認め励ましていく。 |
| <p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒肯定的回答 95%以上</p> | ① 社会や総合的な学習の時間の学習を通して、多様な文化について理解させるとともに、様々な考え方に対する寛容性を養い、受け入れることができるようにする。 | B | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は、97.2%↑(96.7%)を示し、昨年度よりも上回り、数値指標も達成できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や総合的な学習の時間の学習、外国語、道徳の授業を通して、多様な文化について理解させるとともに、様々な考え方に対する寛容性を養い、受け入れることができるようにする。 |
| <p>A17 学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> | ① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 | B | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は、86.2%↑(85.1%)を示し、昨年度よりも上回り、数値指標も達成できた。 ・保護者の肯定的割合は、87.3%↓(89.8%)を示し、昨年度よりも下回ったが、達成状況は良好である。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を中心として、授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 |
| | ② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 | B | |
| | ③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 |
| | ④ 小中一貫教育実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育実施に伴い、乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。 |

| | | | |
|--|---|----------------------------|--|
| <p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒肯定的回答 95%以上</p> | <p>① 学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための具体的方策を工夫する。児童が興味・関心をもって授業に臨めるような課題を設定するとともに、「学習問題」を明確にし、「まとめ」「振り返り」を意識した分かる授業を組み立てる。</p> <p>② 分かる授業を展開するために、「一人一授業」(研究授業)を実践し、自己研修と授業力向上に努める。また、学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。</p> <p>③ 『『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上について』の「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。</p> | <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答率は 95.9% ↑ (94.4%) で数値指標 95%をやや上回っている。 保護者の肯定的回答率は 82.7%(82.7%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための具体的方策を工夫する。児童が興味・関心をもって授業に臨めるような課題を設定するとともに、「学習問題」を明確にし、「まとめ」を意識した分かる授業を組み立てる。まとめや振り返りの時間を確保し、授業の終末を充実させることで、学習内容の定着を図り、学力向上につなげる。 一人一授業や研修会の実践などにより、教員間での学び合いを深められるようにする。 「分かる授業」チェックリストの活用により、自己評価を行い、授業力向上につなげられるようにする。 どの学級でも学習の進め方を統一することで、次年度以降、担任が代わっても授業形態が変わらないようにする。 |
| <p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 些細なことについても教職員の共通理解を図り、目的やそれぞれの役割を考えながら業務に取り組めるように、掲示板や打合せを有効に活用する。</p> <p>② PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、業務にあたる。</p> | <p>B</p> <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答率は 91.7% ↓ (93.3%)を示し、数値指標 90%を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体策を引き続き確実に実施していくとともに、一人で抱え込まないようお互いに声を掛け合って業務にあたっていけるようにする。 |
| <p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 掲示板を効果的に活用し、会議や打合せを精選する。</p> <p>② PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、スタッフ間の連携・協力を促進し、業務の重なりや非効率な点がないかを精査改善する。</p> | <p>B</p> <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答率は 91.7% ↑ (86.7%)を示し、数値指標 85%を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5 ポイント数値が上がっており、今年度それなりの成果があったと思われる。引き続き、重複や非効率な点の精査・改善に取り組んでいく |
| <p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 有意義な乗り入れ授業や中学校訪問になるよう、担当者をはじめ、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また、互いの授業を参観する機会を設けるなど、職員が相互理解を図ることができるようにする。</p> <p>② 学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。(運動会など)</p> | <p>B</p> <p>B</p> | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的割合は、児童で 83.2% ↑ (73.6%) と良好であったが、保護者で 77.4% ↑ (76.1%) を示し、数値指標を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意義のある乗り入れ授業や中学校訪問になるように、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また地域学校園教科部会・分科会の機会において、職員が相互理解を図ることができるようにする。 運動会での水撒きや陸上練習、小中合同あいさつ運動等、学校行事や地域学校園行事 |

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| | ③ 若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛け、相互理解を進め、小・中学校間の学習での接続を意識した連携を行っていく。 | B | において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。 ・次年度の要請訪問等、若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛ける。 |
| A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒肯定的回答 85%以上 | ① 生活科や総合的な学習の時間を中心に地域の特徴や人材を生かした教育活動について内容を精選しながら展開し、地域に対する理解を深め、地域に対する愛着を深めることができるようにする。 ② 依頼内容を明確にした「学習ボランティア依頼書」を作成し、地域コーディネーターを通して募集した地域や保護者の学習ボランティアとの打合せを密に行うことで効果的な学習に結び付けるとともに、ボランティアの方々への感謝の気持ちをもたせるようにする。 | B | 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.8% ↑(86.1%) を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率 85.1% ↓(86.5%)、教職員は 97.2% ↑(96.7%)であった。 【次年度の方針】 ・コロナ禍で、地域人材を校内に招くことを慎重にしなければならない中、児童や保護者の数値があまり変化がないのは、出前授業等、慎重な中でも交流ができているからだと思われる。引き続き、やることを精選しつつ交流を続けていく。 |
| A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒肯定的回答 85%以上 地域住民アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒肯定的回答 80%以上 | ① 家庭や地域、企業等と連携を図り、「出前授業」等で児童の学びにつなげるようにする。 ② 地域協議会委員が、児童の学習の様子を参観する機会を設ける等して児童の実態を知らせる。 ③ 低学年における幼・保・小連携の推進や、「五代夏まつり」、地域の行事等への参加を通して、児童に地域との関わりをもたせる。 ④ 学校・家庭・地域間の連絡を密にし、登下校等について話し合うなどして児童の安全確保に努める。 | B B B B | 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.8% ↑(86.1%) を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・地域住民の肯定的回答率は 85.1% ↑(66.7%)で、数値指標 80%を上回った。 【次年度の方針】 ・コロナ禍で、授業参観等への参加人数を制限したり、五代夏祭りが中止になったりしている中、児童の数値があまり変わっていないのは、家庭や地域の協力があり、できそうなことをできる形で実施しているからであると考えられる。次年度もコロナ禍は続くものと思われるため、今年度同様、できることを精選して実施していく。 |
| A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒肯定的回答 85%以上 | ① 月に1度の安全点検や日常的な点検を実施し、校舎内外の整備や保全に努める。 | B | 【達成状況】 ・教職員の肯定的割合は、97.2% ↑(96.7%) を示し、昨年度よりも上回り、数値指標も達成できた。 ・保護者の肯定的割合は、83.8% ↑(89.9%) を示し、昨年度および数値指標も下回った。 【次年度の方針】 ・月に1度の安全点検や日常的な点検を実施するとともに、配慮児童の身体の状態に応じたバリアフリー化を図る。 |
| A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書 | ① 1人1台端末の積極的な利用を中心とした、ICT機器の活用を図る。 | B | 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 84.7% ↓(89.8%) |

| | | | |
|------------------|---|---|--|
| | <p>等を整えている。</p> <p>【数値指標】 保護者アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒肯定的回答 80%以上</p> | <p>② 地域協議会学習支援ボランティア（図書ボランティア）と連携し、図書室の環境整備を行う。</p> | <p>B</p> <p>で数値指標 80%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は79.7% ↑(79.3%)であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・プログラミングの学習で使用する教材の準備・確認をし、授業ですぐに使用できるようにする。専門性の高い指導者を募れるとよい。 ・児童や教職員の意見や希望を取り入れながら、図書の計画的な購入・配架を行う。図書ボランティアと連携し、引き続き図書室の環境整備に努める。</p> |
| | <p>B3 学校は、学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明を心がける。</p> <p>② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。</p> <p>③ 「家庭学習強化週間」（年2回）を実施し、計画的な家庭学習の仕方の指導を充実させ、保護者への啓発を図る。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 89.5% ↓(89.6%)を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 77.2% ↓(81.3%)、教職員は 94.4% ↓(100%)、地域住民は 100%(100%)であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・家庭学習についての資料を配付し、家庭学習の意義や効果を保護者に伝えていく。 ・音読カード・家庭学習カードを活用し、家庭と連携して学習習慣の形成を図っていく。 ・家庭学習強化週間の年2回(6月、12月)の実施を続けていきたい。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。</p> <p>B</p> |
| <p>本校の特色・課題等</p> | <p>B4 教職員は、児童が主体的に学習に取り組むことができるような指導法を工夫している。</p> <p>【数値目標】 児童アンケート「先生は、自分から進んで勉強に取り組むことができるように教えてくれる」 ⇒肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 各他教科等において、興味関心を持つ内容と絡めたり、学習方法や発表の仕方等を自ら選択できる場を設定したりして、児童が主体的に学習に取り組むことができるように指導を工夫する。</p> <p>② 各教科の関連を図りながら、児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。</p> <p>③ 「話合いの名人になろう」を活用し、自分の考えをまとめ、進んで「発表する」「伝える」態度の育成に取り組む。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 93.7% ↑(92.8%)を示し、数値指標 90%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 78.4% ↑(76.4%)、教職員は 94.4% ↓(100%)、地域住民は 100%(100%)であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・各教科等において、児童が興味関心を持つ内容と絡め、主体的に学習に取り組み、自分の学びを深めていけるよう支援する。 ・各教科だけでなく、学校生活全般で言語活動の充実を図り、多様な手段で表現できる力を育成する。 ・コグトレを朝の活動に位置づけ、認知機能を高めるトレーニングを継続して行うことで、基礎学力の土台づくりをしていく。 ・一人一台端末、ホワイトボード、実物投影機等を効果的に使い、「発表する」「伝える」態度の育成に取り組む。</p> <p>B</p> |

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>B5 学校は、道徳教育や授業、様々な活動等を通して「心の教育」を推進し、豊かな人間性を育てている。</p> <p>【数値目標】 児童アンケート「学校（高学年：道徳や授業、体験活動など）は、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」 ⇒肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 全校一斉の特別の教科道徳の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。</p> | B | <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定回答率は 94.2%↑(92.5%)を示し、数値指標 90%を上回っている。 保護者の肯定的回答率 84.8%↑(84.3%)、教職員は 94.4%(100%)、地域住民は 100%(100%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業では、教科書やデジタル教材を活用する。必要に応じて教材の開発をし、資料等は保管・整理して活用できるようにする。 幼保小連携活動は、連携を密にし、活動の意義を踏まえて活動内容を検討し、内容を精選する。 なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるように、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。 道徳の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。 |
| | <p>② 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。</p> | B | |
| | <p>③ 全校一斉の特別の教科道徳の授業参観を実施する。</p> | B | |
| | <p>④ 年長さんを迎える会などのふれあい活動や総合的な学習の時間の活動などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。</p> | B | |
| | <p>⑤ なかよし班や縦割り清掃班の中で様々な学年の友達と一っしょに活動することを通して、充実した異学年交流活動ができるようにする。</p> | B | |

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 教職員・保護者・地域住民・児童とも、多くの項目で肯定的回答の割合が80%を超えている（教職員は30項目中28項目、保護者は24項目中16項目、地域住民は16項目中15項目、児童は25項目中24項目）。 教職員は、昨年度より肯定的回答が5ポイント以上高くなった項目が2項目、5ポイント以上低くなった項目は2項目あった。保護者は、昨年度より5ポイント以上高くなった項目が1項目あり、5ポイント以上低くなった項目が1項目あった。地域住民は、昨年度より5ポイント以上高くなった項目が5項目あり、5ポイント以上低くなった項目が1項目あった。児童は、5ポイント以上高くなった項目が5項目あり、5ポイント以上低くなった項目はなかった。前年度との比較において評価が低くなったものについては真摯に受け止め、次年度に向けて対応を検討していく。 昨年度と比較して大きく数値が伸びている項目は次の3つである。 <ul style="list-style-type: none"> A4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 教職員 70.0→86.1, 保護者 78.3→82.7, 地域 90.0→100.0, 児童 85.9→94.7 （【数値指標】児童の肯定的回答 85%以上, 保護者の肯定的回答 80%以上） A8「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている」 教職員 86.7→88.9, 児童 83.0→88.5 （【数値指標】児童の肯定的回答 85%以上） A21「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 教職員 90.0→88.9, 保護者 76.1→77.4, 地域 90.0→100.0, 児童 73.6→83.2 （【数値指標】児童の肯定的回答 80%以上） 課題が残った項目は次の2つである。 <ul style="list-style-type: none"> A9「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている」 教職員 80.0→77.8, 保護者 67.1→67.1, 児童 85.1→82.0 （【数値指標】児童の肯定的回答 85%以上） B2「児童は、進んで本を読んでいる」 教職員 100.0→91.7, 保護者 59.5→59.3, 地域 85.7→100.0, 児童 71.7→73.5 （【数値指標】児童の肯定的回答 80%以上） 保護者の回答で、肯定的な回答の割合が高かったものは「児童生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」90.5%、「児童生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」92.6%、「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」93.6%、「児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」90.7%、「児童は、楽しい学校生活を送っている」93.3%であり、学校の取組に対して昨年度よりもさらに理解を |
|--|

示していることがうかがえる。

- ・保護者の回答で「児童生徒は宇都宮の良さを知っている」はここ数年で徐々に数値が上がっていたが、今年度は67.1%で昨年と変わっていない。総合的な学習や社会の学習を通して宇都宮の良さを具体的に上げるなどの取組について、工夫が求められる。
- A21「学校は、『小中一貫地域学校園』の取組を行っている」の肯定的な回答の割合は、教職員は88.9%、保護者77.4%、地域住民100%、児童83.2%である。前年度と比較すると、教職員の割合は1.1ポイント低下してはいるが、保護者、地域住民、児童は昨年度より上がっており、特に地域住民と児童は10ポイントほど伸びている。これは、withコロナの考えのもと、小中合同あいさつ運動や五代っ子フェスタなど、行事ができるようになった結果ではないかと考えられる。
- ・「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」の肯定的な回答の割合は、教職員と児童の数値は高いが、保護者と地域住民は低くなっている。次年度はどのようにして学校の取組をアピールするかが課題であると考えられる。
- ・児童の回答では、10項目において90%を超えており、学校で教職員が熱意を持って児童への指導に当たっており、そのことが児童にしっかりと受け止められ、教職員と児童との信頼関係が構築されているものと考えられる。しかし、「私は、今の学校が好き。」86.2%、「私は、楽しい学校生活を送っている。」88.6%と、さほど高くないことが気になる点である。次年度は、すべての児童が学校を安心できる居場所として感じられるような取組が必要ではないかと考えられる。

7 学校関係者評価

- ・ホームページで小学校の様子が写真付きでアップされているので見やすい。
- ・たくさんの項目があり、学校側の努力がしのばれる。
- ・今後も変わりなく、子供たちのために学校・地域・保護者が連携して行ってほしい。
- ・今年度は、以前と比べて児童からの挨拶が多くなったような気がするが、もっと挨拶が増えるとよいと思う。
- ・子供たちの挨拶は、元気に返って来る時とさみしい時とあるが、全体的にはよい傾向になっていると思う。
- ・先生方の挨拶も気持ちがいい。
- ・学校行事などに、もっと保護者の参加を求めてよいと思う。保護者が学校に来ると、先生方の負担は増えるかもしれないが、子供たちにとって「大人が見ている」という感覚はあると思う。
- ・小中一貫・地域学校園の取組については、昨年同様に学校と保護者とで感じ方に温度差があるように思う。子供たちは10%近く上がっているということは、行事等ができるようになり、目で見て分かりやすくなったからと思う。
- ・A17「学校全体に活気があり…」について、教職員、保護者、地域住民に比べて児童の数値が一番低いのが気になる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・挨拶に関して昨年度よりも大きく数値が上がったので、次年度も学校と地域全体で継続して取り組んでいく。
- 小中連携の取組の更なる拡充や小中連携のカリキュラムマネジメントの作成といった試みを通して、地域学校園の一層の連携を図っていく。
- ・今年度も学校ホームページ等を活用し、学校のことや児童のことについて情報を発信することができた。次年度も継続して行う。
- ・地域の皆様からは、概ね良好な評価をいただいたと感じている。各項目の「次年度の方針」を共通理解し、さらに信頼される学校を目指し、教職員一丸となって教育活動に取り組んでいきたい。